

U-18未来フォーラム事業に係る拠点校の取組

平成30年6月 北海道教育委員会

道教委では、高校生が国際的な視野を広げ、コミュニケーション能力を高めるため、8校の拠点校においてICTを活用して海外の高校生等との交流を行う「U-18未来フォーラム事業」に取り組んでいます。

このリーフレットは、拠点校と海外協力校との取組について紹介しています。

1 拠点校と海外協力校（平成28～29年度）

管内	拠点校（8校）	海外協力校（国名）
石狩	千歳高等学校	Wattanothaipayap School Chiang Mai (Thailand)
	札幌啓成高等学校	Maleny State School (Australia)
胆振	登別明日中等教育学校	Armidale High School (Australia)
檜山	上ノ国高等学校	Yupparaj Wittayalai School (Thailand)
上川	旭川永嶺高等学校	Nelson College (New Zealand)
	富良野緑峰高等学校	Divine Mercy College (Australia)
十勝	音更高等学校	Taieri College (New Zealand)
釧路	釧路東高等学校	Woodford House (New Zealand)

2 接続に必要なICT機器

平成28年度の事業開始に当たり、拠点校にカメラ、マイク及びスピーカーを設置し、スクールネット回線でSkype for Businessの使用により交流授業を行った。平成29年度には、海外拠点校とよりスムーズに接続できるよう、拠点校にWi-Fi機器を設置している。

3 各拠点校の取組

■ 北海道札幌啓成高等学校 【海外協力校：マレニーステイト校（オーストラリア）】

- スーパーサイエンスハイスクール（SSH）に係る「課題研究」の時間を活用し、生徒が環境問題等の課題や解決方法について、英語で海外協力校と交流を行った。

○ 生徒からの感想

- ・海外相手校は^(※)STEM教育を学んでいるため、環境問題など特定の課題について協議を深めることができた。
- ・それぞれのプレゼンテーションの内容に関して、両校から質疑応答があるなどインタラクティブな交流授業となった。

※STEMとは、科学・技術・工学・数学の教育分野の総称



■ 北海道上ノ国高等学校 【海外協力校：ユパラー・ウィタヤライ校（タイ）】

- 自国の文化を紹介する際に、写真を示しながら説明するなど、それぞれの国の文化や日常生活の関心事などについて英語で異文化交流を行った。

○ 生徒からの感想

- ・海外協力校の生徒と交流することにより、タイの文化や習慣を学び、また、世界の物事に目を向けるようになりました。
- ・英語で考えなどを伝えるのは難しいと感じましたが、言葉でなくとも、笑顔やジェスチャー、紙に書いて伝えるなどして、活発な交流ができることを学びました。



■ 北海道旭川永嶺高等学校 【海外協力校：ネルソンカレッジ校（ニュージーランド）】

- 海外協力校の生徒に対して、自己紹介や自分の好きなことなどについて発表し、相手の趣味などを尋ねる活動を行った。また、日本語を学習する海外協力校の生徒から日本語による質問があるなど、活発な交流を行った。

○ 生徒からの感想

- ・自分と同年代の生徒とコミュニケーションをとり、伝えよう、聞き取ろうという気持ちがあれば、こんなにも楽しい会話ができ、通じ合えるのだと実感しました。
- ・他国の人と話すことにより、少しだけですが自分の世界が広がったため、よい経験となりました。



■ 北海道釧路東高等学校 【海外協力校：ウッドフォード・ハウス校（ニュージーランド）】

- 北海道の先住民族であるアイヌについて学習し、その文化をニュージーランドの生徒に紹介することにより、自国の文化への理解・関心を深めるとともに、ニュージーランドの先住民族であるマオリ族についても関心を高め、国際的な視野を広げることができた。

○ 生徒からの感想

- ・本物の英語に触れられる機会はめったにないため、とてもよい経験だった。
- ・もう少し英語で話せるようになりたい。聞き取れるようになりたい。理解できるようになりたい。



■ 北海道登別明日中等教育学校 【海外協力校：アーミデール校（オーストラリア）】

- 日本語を学び、日本の文化に興味のある海外協力校の生徒と、日本のアニメやマンガをはじめとするポップカルチャーや、それぞれの国の生活習慣などについて交流を行った。

また、近隣の高校生や教員を招いて「地区フォーラム」を開催し、ICTを活用した海外協力校との交流に関する実践研究の発表や協議を行い、実践研究の普及を図った。

○ 生徒からの感想

- ・オーストラリアの生徒が私たちのプレゼンテーションに反応してくれたので嬉しかった。楽しくて勉強になった。
- ・お互いの文化を発信することにより、それぞれの国の生活や文化の違いについて触れることができた。
- ・「地区フォーラム」に参加した他校の生徒と交流したり、自分たちの未来について話したりすることができ、楽しく興味深かった。



今後は、ICTの活用による交流を通じて、外国の事情や異文化について理解を深めるとともに、自国の事情や文化などを取り上げ、お互いの文化等の類似点や相違点について考えたり、海外協力校のニーズに応じて、日本語を教えたりする取組が期待できそうです。